

(2) 中学校第2学年

(※平成20年度の本県の質問紙調査と全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、質問項目が同じものについては「全国H20」として結果を載せる。ただし、全国の対象学年は中学校3学年である。)

ア 勉強について

(単位：%)

		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない	分からない	その他・ 無回答
勉強すれば、私の好きな仕事につくことに役立つ	本県H15	45.2	31.0	10.5	6.4	6.5	0.4
	本県H17	36.5	38.0	10.5	6.3	8.7	0.0
	本県H20	41.1	37.9	9.5	4.8	6.7	0.0
勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ	本県H15	33.5	40.2	14.3	6.4	5.4	0.3
	本県H17	36.3	41.2	11.9	5.1	5.5	0.0
	本県H20	40.4	41.8	9.9	4.1	3.7	0.0
お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい	本県H15	10.7	21.3	28.9	33.8	4.9	0.4
	本県H17	11.4	24.8	24.9	33.2	5.7	0.0
	本県H20	12.5	28.1	25.8	28.4	5.2	0.0
先生にほめられるよう、勉強したい	本県H15	7.1	18.1	31.0	38.3	5.3	0.3
	本県H17	8.2	22.0	27.5	36.2	6.2	0.0
	本県H20	9.2	24.9	28.2	32.0	5.7	0.0
ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい	本県H15	20.8	42.5	22.1	8.9	5.4	0.3
	本県H17	33.4	40.5	14.7	6.7	4.7	0.0
	本県H20	34.2	42.5	14.1	5.6	3.6	0.0

勉強については、「勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役に立つ」の質問で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が、小学校5学年と同様、最も高く、82.2%となっている。また、「勉強すれば、私の好きな仕事につくことに役立つ」でも肯定的な意見が79.0%であり、前向きに努力したいと思っている生徒が多いことが分かる。

平成17年度本県調査との比較では、すべての項目において、「そう思う」あるいは（どちらかといえばそう思う）と肯定的に回答した生徒の割合が、2.8ポイントから最大4.7ポイント上回っている。

「お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい」で、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」が40.6%、「先生にほめられるよう勉強したい」が34.1%、「ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」が76.7%であることから、勉強の動機が、ほめられるなどの感情的充足感よりも、将来的・社会的見地からきていることがうかがえる。

今後も、生徒の頑張りを認めながら勉強に意欲的に取り組もうとする気持ちや態度を伸ばし、その生徒のやる気を生かすように具体的な学習への取組方法等を助言していくことが大切である。

(単位：%)

		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらかと いえばそう 思わない	そう 思わない	分からない	その他・ 無回答
国語の勉強が 好きだ	本県H15	14.9	30.3	29.5	20.5	4.4	0.4
	本県H17	18.6	32.6	27.4	16.9	4.5	0.0
	本県H20	19.3	34.3	28.5	14.3	3.6	0.0
	全国H20	19.7	35.5	29.9	14.7	0.0	0.2
国語の勉強は 大切だ	本県H15	39.2	40.0	11.3	6.0	3.2	0.3
	本県H17	43.8	38.9	9.5	4.5	3.3	0.0
	本県H20	48.7	37.4	8.3	3.4	2.3	0.0
	全国H20	49.2	38.0	9.1	3.5	0.0	0.2
社会の勉強が 好きだ	本県H15	21.4	27.5	26.8	20.6	3.4	0.2
	本県H17	24.5	28.5	25.2	18.3	3.6	0.0
	本県H20	26.3	32.0	24.7	14.1	2.9	0.0
社会の勉強は 大切だ	本県H15	24.7	36.5	21.6	12.7	4.3	0.2
	本県H17	26.7	36.9	20.1	11.5	4.8	0.0
	本県H20	30.7	38.1	18.8	8.6	3.7	0.0
数学の勉強が 好きだ	本県H15	17.7	23.5	25.8	29.3	3.4	0.2
	本県H17	22.9	25.0	24.6	23.8	3.7	0.0
	本県H20	23.1	26.6	25.2	21.8	3.4	0.0
	全国H20	26.1	27.1	25.0	21.5	0.0	0.3
数学の勉強は 大切だ	本県H15	38.1	36.2	13.2	8.9	3.4	0.2
	本県H17	40.5	35.5	12.9	7.8	3.4	0.0
	本県H20	41.7	35.8	12.9	6.7	2.9	0.0
	全国H20	42.1	36.0	14.7	6.7	0.0	0.3
理科の勉強が 好きだ	本県H15	24.2	30.8	23.9	17.5	3.4	0.1
	本県H17	27.1	31.7	22.8	15.0	3.4	0.0
	本県H20	26.3	33.5	23.6	13.9	2.6	0.0
理科の勉強は 大切だ	本県H15	20.6	32.1	26.1	15.9	5.2	0.2
	本県H17	22.1	32.4	25.2	14.6	5.7	0.0
	本県H20	24.9	34.9	23.9	12.0	4.3	0.0
英語の勉強が 好きだ	本県H15	20.1	25.4	25.7	24.6	4.0	0.2
	本県H17	23.9	26.2	24.6	21.1	4.3	0.0
	本県H20	21.1	28.5	26.8	19.9	3.7	0.0
英語の勉強は 大切だ	本県H15	42.3	30.4	12.8	10.7	3.6	0.2
	本県H17	44.3	30.0	12.4	9.2	4.1	0.0
	本県H20	38.0	32.5	15.6	9.9	3.9	0.0

「(教科)の勉強が好きだ」という質問では、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は、理科59.8%、社会58.3%、国語53.6%、数学49.7%、英語49.6%となっている。

平成17年度本県調査との比較では、英語以外の4教科において、「そう思う」あるいは「どちら

かといえばそう思う」と回答した生徒の割合が高くなっているが、社会で5.3ポイント上回っている以外は、同程度となっている。

「(教科)の勉強は大切だ」という項目では、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は、国語86.1%、数学77.5%、英語70.5%、社会68.8%であるが、理科は59.8%と他に比べて低くなっている。

「(教科)の勉強は大切だ」という項目と「(教科)の勉強が好きだ」という項目を比較すると、同教科の項目において、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が同じであるのが理科である。それ以外の教科では、「大切だ」と考えている生徒の割合が「好きだ」と回答している生徒の割合より10.5ポイントから最大32.5ポイント上回っている。

このように、勉強することが大切だと考えているが、その教科を好きだと思えない生徒が見られることから、小学校5年生同様、授業に工夫・改善をこらし、分かる喜び、できる喜びを実感させ、各教科の学習に向かう意欲の向上に努めることが必要である。

イ 授業について

(単位：%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半ばずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない	その他・無回答
国語の授業がどの程度分かりますか	本県H15	10.8	48.7	30.3	8.4	1.7	0.1
	本県H17	10.5	48.0	33.1	6.9	1.5	0.0
	本県H20	13.2	52.2	28.4	5.1	1.1	0.0
	全国H20	19.3	47.8		25.3	7.3	0.2
社会の授業がどの程度分かりますか	本県H15	14.5	35.9	29.9	15.6	4.0	0.2
	本県H17	14.7	35.7	30.6	15.0	4.1	0.0
	本県H20	17.7	40.7	28.1	11.1	2.4	0.0
数学の授業がどの程度分かりますか	本県H15	17.3	32.6	27.3	16.6	6.0	0.2
	本県H17	18.7	34.8	26.1	15.0	5.5	0.0
	本県H20	20.1	35.0	26.7	13.6	4.7	0.0
	全国H20	27.5	38.3		23.3	10.4	0.4
理科の授業がどの程度分かりますか	本県H15	17.4	38.6	29.4	11.5	2.9	0.2
	本県H17	17.2	37.9	29.8	11.8	3.3	0.0
	本県H20	17.1	39.4	29.7	10.9	2.9	0.0
英語の授業がどの程度分かりますか	本県H15	14.6	30.2	27.2	19.5	8.3	0.2
	本県H17	16.4	30.6	27.1	17.7	8.2	0.0
	本県H20	15.8	32.5	28.6	16.7	6.3	0.0

「(教科)の授業がどの程度分かりますか」という質問では、「よく分かる」あるいは「だいたい分かる」と回答した生徒の割合は、国語65.4%、社会58.4%、数学55.1%、理科56.5%、英語48.3%となっており、いずれも平成17年度本調査よりも上回っている。

また、「分からないことが多い」あるいは「ほとんど分からない」と回答した生徒の割合は、英語が一番高く23.0%となっており、次に高いのが数学で18.3%となっている。

「(教科)の勉強が好きである」の項目と照らし合わせてみると、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」の割合が一番低かったのも英語であり、次に低かったのが数学である。

このことから、授業が分かる分からないが、その教科の好き嫌いにも大きく影響していると考えることができる。

○ 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族の人にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく	無回答
本県H15	20.0	14.1	63.1	31.9	12.8	43.3	27.7	0.2
本県H17	21.5	15.4	59.9	31.7	12.8	43.0	28.4	0.0
本県H20	15.5	15.4	64.0	34.3	12.3	45.2	24.6	0.0

授業の中で分からないことがあった場合、「友人にたずねる」「自分で調べる」と回答した生徒の割合が高く、それぞれ64.0%、45.2%となっている。

平成17年度本県調査との比較では、「その場で先生にたずねる」が6.0ポイント下回っている一方、「友人にたずねる」が4.1ポイント上回っている。

また、分からないことを「そのままにしておく」と回答した生徒が24.6%であり、小学校5年生と比べても11.6ポイントも高くなっていることから、今後は、授業において、分からないことを教師に尋ねやすい雰囲気づくりに努めたり、生徒同士が互いに教え合える温かい人間関係づくりに努めるとともに、自分で調べたりしながら学習を進めていけるよう、一人勉強の進め方等を助言していくことが大切である。

ウ 家庭学習について

○ 学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。(複数回答) (単位：%)

	全く、または、ほとんどしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	その他・無回答
本県H15	19.0	18.3	27.5	24.0	9.0	2.0	0.2
本県H17	14.8	15.9	29.1	27.9	9.8	2.4	0.0
本県H20	10.3	15.3	30.9	30.4	10.6	2.4	0.0
全国H20	7.6	10.1	16.7	29.7	25.5	10.3	0.1

○ ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。(複数回答) (単位：%)

	ほとんど勉強しない	宿題が出れば、宿題をする	試験があれば、それにそなえて勉強する	予習や復習をする	興味があることについて自分で調べたり、たしかめたりする	無回答
本県H15	17.4	72.6	58.4	20.3	16.1	0.2
本県H17	14.6	72.8	58.2	21.4	14.9	0.0
本県H20	11.4	76.6	59.8	23.9	15.7	0.0

平日においては、学校の授業以外に、30分以上（「30分以上」には「1時間以上」、「2時間以上」、「3時間以上」を含む）勉強すると回答した生徒は74.3%であり、平成17年度本県調査より5.1ポイント上回っている。さらに、1時間以上（「1時間以上」には、「2時間以上」、「3時間以上」を含む）勉強すると回答した生徒は43.4%であり、平成17年度本県調査より3.3ポイント上回っている。一方、「全く、またはほとんどしない」と回答した生徒は10.3%であり、平成17年度本県調査より4.5ポイント下回っている。このことから、平成17年度本県調査に比べて、家庭学習の時間が若干長くなっていることが分かる。

全国との比較では、30分以上勉強すると回答した生徒の割合が、全国より7.9ポイント下回っており、同時に「全く、またはほとんどしない」生徒の割合は、全国より2.7ポイント上回っている。

家庭学習を「全く、または、ほとんどしない」と回答した生徒は、小学校5学年の6.7%に比べ、中学校2学年では10.3%と高くなっている。また、30分以上勉強すると回答した生徒も、小学校5学年の78.4%に比べ、中学校2学年は74.3%と低くなっていることから、小学校から中学校へ進級しても、必ずしも学習時間が増えていないことが分かる。家庭での学習習慣が身に付くよう、課題の与え方など個に応じたきめ細かな指導を家庭の協力を得て行うことが大切である。

エ 生活について

○ 1日にどのくらいすいみん時間をとりますか。

(単位：%)

	10時間以上	9時間以上、10時間より少ない	8時間以上、9時間より少ない	7時間以上、8時間より少ない	6時間以上、7時間より少ない	6時間より少ない	その他・無回答
本県H15	1.9	5.8	20.2	30.4	29.6	12.0	0.2
本県H17	2.4	5.5	18.3	29.7	30.3	13.8	0.0
本県H20	2.1	4.7	16.7	31.9	31.4	13.1	0.0
全国H20	1.2	4.3	18.0	36.4	30.1	9.9	0.2

○ 学校に行く前に朝食をとりますか。

(単位：%)

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全く、または、ほとんどとらない	その他・無回答
本県H15	72.3	17.7	6.1	3.8	0.2
本県H17	72.7	18.0	5.8	3.4	0.0
本県H20	78.2	14.8	4.4	2.6	0.0
全国H20	81.2	10.8	5.7	2.3	0.0

「1日にどのくらいすいみん時間をとりますか」という質問では、「7時間以上」（「7時間以上」には、「8時間以上」、「9時間以上」、「10時間以上」を含む）と回答した生徒は55.4%であり、平成17年度本県調査より0.5ポイント下回っており、全国より4.5ポイント下回っている。

「学校に行く前に朝食をとりますか」という質問では、「必ずとる」、「たいていとる」と回答した生徒が93.0%であり、平成17年度本県調査及び全国より上回っている。

今年度の全国・学力学習状況調査の結果分析から、「朝食を毎日食べる」「学校への持ち物を確認する」「毎日同じくらいの時間に寝たり起きたりする」などの基本的な生活習慣と正答数との相関

が比較的強いことが明らかとなっている。よって、学校においても適切な家庭学習の課題を与えるなど、生活・学習習慣の確立に向けた適切な指導を行っていくことが望まれる。今後も引き続き、学校においては、保護者や地域と連携を図りながら、生徒の家庭での生活・学習習慣の形成を支援していく取組が必要である。

オ 読書について

○ 学校の授業以外で1日にだいたいどのくらい読書をしますか。 (単位：%)

	全く、または、ほとんどしない	10分より少ない	10分以上、30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上	その他・無回答
本県H15	51.9	11.9	18.9	10.0	7.1	0.2
本県H17	47.8	12.4	20.7	11.1	8.0	0.0
本県H20	42.7	11.6	23.8	13.2	8.6	0.0
全国H20	37.6	12.4	21.6	15.1	13.1	0.2

平日においては、学校の授業以外に「10分以上」（「10分以上」には、「30分以上」、「1時間以上」を含む）読書をする回答した生徒は45.6%であり、平成17年度本県調査より5.8ポイント上回っている。また、「30分以上」（「30分以上」には、「1時間以上」を含む）読書すると回答した生徒は21.8%であり、平成17年度調査より2.7%ポイント上回っている。

一方、「全く、または、ほとんどしない」と回答した生徒は42.7%であり、平成17年度本県調査より5.1ポイント下回っている。このことから、平成17年度本県調査より読書の時間が若干長くなっていることが分かる。

全国との比較では、「10分以上」（「10分以上」には「30分以上」、「1時間以上」を含む）読書すると回答した生徒の割合は、本県の方が4.2ポイント低く、「全く、または、ほとんどしない」生徒の割合は、本県の方が5.1ポイント高くなっている。また、小学校第5学年に比べて読書しない生徒の割合が42.7%と高くなっている。このため、生徒に読書の楽しさとの出会いを積極的につくっていくことが大切であり、読書に親しむ態度や読書習慣を身に付けさせるために「朝の読書」やブックトークなどの読書活動を日常の教育活動に取り入れるなど、読書の時間の確保や読書の機会の充実をしていくことが必要である。

カ 進学について

○ 将来どの学校まで進みたいですか。 (単位：%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校	分からない	無回答
本県H15	1.1	32.1	8.4	33.3	8.8	16.1	0.2
本県H17	0.8	30.1	8.3	36.0	8.4	16.5	0.0
本県H20	0.7	31.3	7.8	36.8	7.1	16.4	0.0

進学について、高等学校以上の学校（「高等学校以上」には「その他の学校」を含む）まで進みたいと回答した生徒は83.0%である。高校までが31.3%に対して、短大・大学までが44.6%となっており、短大・大学の方が13.3ポイント上回っている。また、小学校第5学年に比べて短大・

大学まで進みたいと考えている生徒の割合が高くなっているが、「分からない」という生徒が16.4%と多いことから、生徒が自らの生き方を考え、将来についての夢や希望をもち、主体的に進路を選択できるよう、進路指導の充実を図っていくことが大切である。

(3) まとめ

勉強については、前向きに努力したいと思っている児童生徒が多いことから、今後とも、児童生徒の努力や頑張りを認め、自信ややる気をさらに高めながら、授業だけでなく学校生活のあらゆる場面において、具体的に何をどのようにこなしていけばよいのかを考えさせ、必要であれば適切な助言を与えていくことが大切である。

家庭学習については、平成15年度から、小学校も中学校も年々勉強時間が少しずつ長くなっており改善が見られている。一方、全国に比べると長時間勉強する児童生徒の割合は、まだ若干低い傾向にあると同時に、家庭学習をほとんどしていない児童生徒の割合も、全国と比べて多くなっている。短時間であっても家庭等で学習することが効果的であるため、家庭での学習習慣が身に付くよう、個に応じたきめ細かな指導を保護者の協力を得て行うことが大切である。

生活については、睡眠時間を適切にとることや朝食を毎日摂取することは、心身の健康の維持や規則正しい生活の実践につながるとともに、学習を支える大切な要素となっているため、今後とも、基本的な生活習慣の見直しを行い、保護者へ家庭での学習環境を整える上での協力を要請するなどの働きかけを行っていく必要がある。

読書については、平成15年度から、読書をほとんどしない児童生徒の割合が年々減ってきている。しかし全国と比べると、小中学校とも、「全く、あるいは、ほとんどしない」児童生徒の割合が5ポイント以上高くなっている。読書活動は、子どもが、ことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものである。今後は、読書の楽しさとの出会いの機会を積極的につくっていくことが大切であり、読書の時間の確保や読書の機会の充実に努めることが必要である。